

しあつて心休まる世界を実現すべきではないかと教えてくださるのではありません。話し合いを拒否する人はこわいですね。「話せばわかる」ということがいかに難しいかということを中心得ながら、それでこそ話し合うていこうと領解するのが仏教徒ではないでしょうか。

(尚、十七条憲法について委しくは『宝章』第二八号の拙稿をご覧ください。)



降誕会奉賛ピンゴゲーム大会で西教寺賞のオーブンを電子レンジをゲットした増阪和也くん(於蔵本通支坊)

聖徳太子は「和国」の教主

親鸞さまは聖徳太子を「和国の教主」と呼ばれて大変尊敬されましたので、真宗寺院には礼拝の対象として聖徳太子が安置されています。どこに安置されているか、みなさんご存じですか？

本堂正面の一段高くなっているところがお内陣。そのお内陣の真ん中が阿弥陀如来さま、向かって右が親鸞さま、左側に蓮如さま①、その外側左右にある畳の間を余間といいます。が、聖徳太子はこの余間に安置されています。

実は先頃、ご本山(西本願寺)より聖徳太子の安置位置について「宗令」が全ヶ寺に送付されました。どういう内容かというところ、実は先の戦争中、七高僧(インド・中国・日本の七人の高僧)のお軸と聖徳太子のお軸を掛け替えよという指令が出たのですが、今回それは無効だ、今後依用しないという

内容のものでした。どういうことかというところ、戦争中には「インド人や中国人(の僧侶)

よりも皇族である聖徳太子の方がエライのに、下座にあるのは不敬だ」という理由で自主的に七高僧と聖徳太子を入れ替え、向かって左側に安置していた聖徳太子を、右側(上座)に位置を変えてしまったのです。

戦後、教団は「宗祖の教えに背き、仏法の名において戦争に積極的協力していた過去の事実を、仏祖の御前に慚愧せずにはおれません」(大谷光真門主「終戦五〇周年全戦没者追悼法要のご親教」と、宗門の戦争責任を明



長ノ木本坊の聖徳太子は一七〇二(元禄十五)年に安置が許可されたもの。

らかにし、平和を求める念仏者としての決意を表明しました。そんな理由で「先の戦争に関して発布した『消息』」などを「今後これを依用しない」とする「宗令」等を発布されたというわけですね。しかし、どういう理由か「元の位置に戻せ」という指令はありません。他者を云々する前に、私たちの教団がしなければならぬことはまだまだたくさんあるようです。

※註①「本願寺の歴代」門主の場合もあります。